

けいはんな世界最大日時計

レーザー光線夢色再び

関西学研都市の「けいはんなプラザ」（京都府精華町光台）にある世界最大の日時計から発射されていたレーザー光線を14年ぶりに復活させようと、学研都市の企業などが準備を進めている。24日に光線発射のテストを行う予定で、「学研都市のシンボルを復活させ、まちを盛り上げたい」と力を込めている。

14年前故障 まち活性化へ新調

復活を目指すのは精華町内た。

の中小企業20社でつくる「精華地区まちづくり協議会」。岩本さんは3年前、大阪府副会長を務める日本伸縮管の1年後、1993年から約3年間、日時計が青緑色のレーザー光線を放っていた時の写真を見て「光線には、多くの人を引きつける魅力がある。住民や企業が一体となったまちづくりに生かそう」と思い

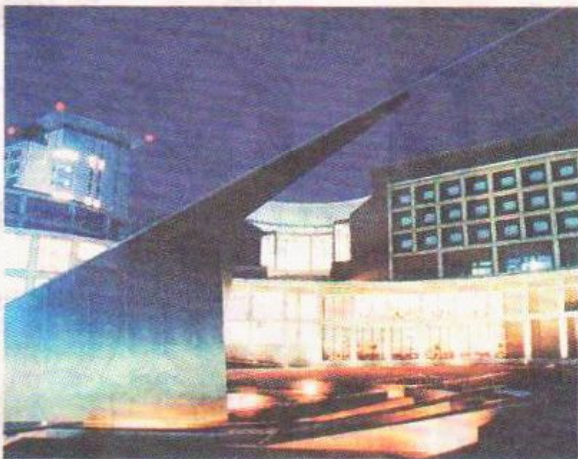
協議会、あす発射テスト

立った。名古屋市中心部の公園を視察するなど、新しい照射システムを調査し、昨年8月に発射したまちづくり協議会でレーザー光線復活計画を提案した。今春、日時計を所有する株式会社けいはんなの快諾を得て、本格的な準備に入った。24日は半導体を使って光線を照射する装置を日時計に取り付け、テストする。かつてのアルゴンガス方式に比べ、維持管理費を大幅に軽減できるといふ。

まちづくり協議会会長の広瀬亮二・広和工業社長（68）は「レーザーを復活させ、衰退ムードの学研都市を多くの人たちがあこがれるまちにできるよう貢献したい」と話している。（吉岡宏）



日時計のレーザー光線復活へ夢を語る岩本さん（右）と広瀬さん（京都府精華町光台・けいはんなプラザ）



かつて青緑色のレーザー光線を発射していた日時計（1995年撮影）

けいはんなプラザの日時計
1993年にオープンした「けいはんなプラザ」の前庭に設置。チタニウム製の針は長さ約35m、文字盤の面積は約3870平方m。北極星に向けてレーザー光線を発射し、「世界最大の日時計」としてギネスブックにも記載された。96年に装置が故障した後、高額な費用がかかるため修理されず、光線は見られなくなった。